

トルリシティ皮下注0.75mgアテオスを使用されている方へ



トルリシティ® 皮下注 0.75mg アテオス® 使い方ガイド

週1回、すぐに使える専用のペンで、血糖をコントロール

〔監修〕

新潟薬科大学薬学部
臨床薬学研究室 教授
朝倉 俊成 先生

横浜市立大学大学院医学研究科
分子内分泌・糖尿病内科学 教授
寺内 康夫 先生

トルリシティの
使い方や作用などを
動画で解説



【重要】医療従事者の皆様へ 本冊子は、トルリシティ皮下注0.75mgアテオスを使用される患者さんにお渡しください。

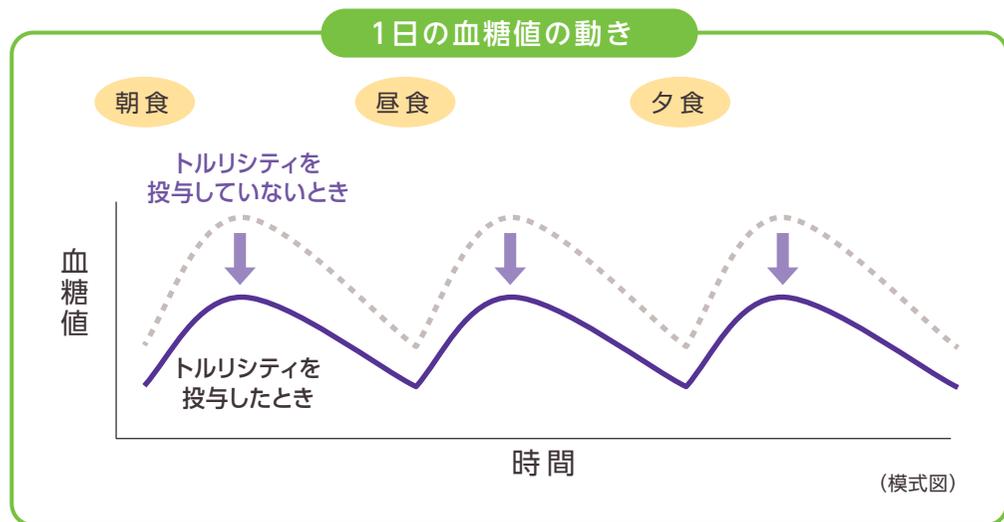
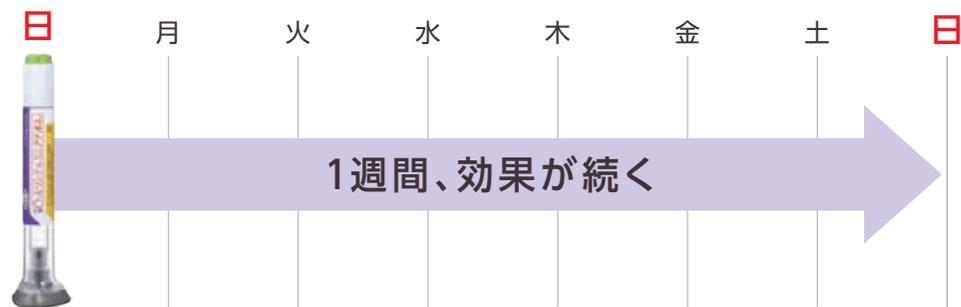
薬液

トルリシティ と アテオス で 血糖コントロールをはじめましょう。

トルリシティは、
2型糖尿病患者さんのためにつくられた血糖値を下げる薬です。
その効果は、1回の投与で1週間続きます。

● 例えば、日曜日*にトルリシティを投与すると・・・

*トルリシティは、毎週同じ曜日に投与してください。



トルリシティは、
すぐに使えて、操作が簡単なアテオス*という専用ペンで、
1週間に1回投与します。

*アテオスの名称は、「あてて、押す」という使い方に由来しています。

アテオスの使い方は次のページをご覧ください

- 注入ボタン (Injection button)
- ロックリング (Lock ring)
- 緑色の目印 (Green mark)
- ロック / ロック解除 (Lock / Unlock)
- 底面 (Bottom)
- キャップ (Cap)

注入ボタンを押すと、トルリシティが自動的に皮膚の下に入っていきます。

1本に1回分のトルリシティが入っていて、使い切りです。

針の取り付けは不要です。採血に使うものとは異なり、細い針が装着されています。

投与するときはキャップを外す

投与前 (ロック) / 投与するとき (ロック解除)

GOOD DESIGN AWARD 2015
グッドデザイン金賞

アテオスは、2015年度のグッドデザイン金賞 (経済産業大臣賞) を受賞しました。

アテオスの使い方

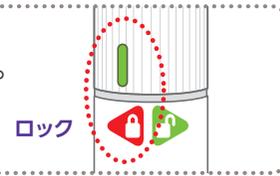
アテオスは針の取り付け、薬を混ぜるなど準備が不要で、すぐに使うことができます。操作は3つのステップです。

(使い方の詳細は、取扱説明書をご覧ください)

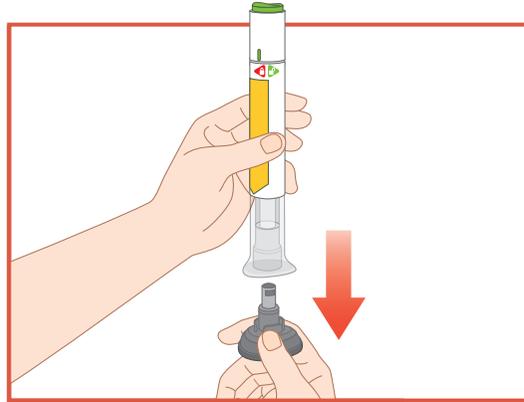
お使いいただく前に

緑色の目印  がロック  の位置にあることを確認してください。

 このときはまだ、ロックを解除しないでください。



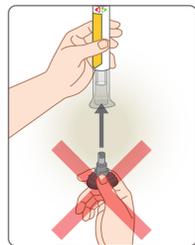
1 キャップをはずす



● 灰色のキャップを取り外します。

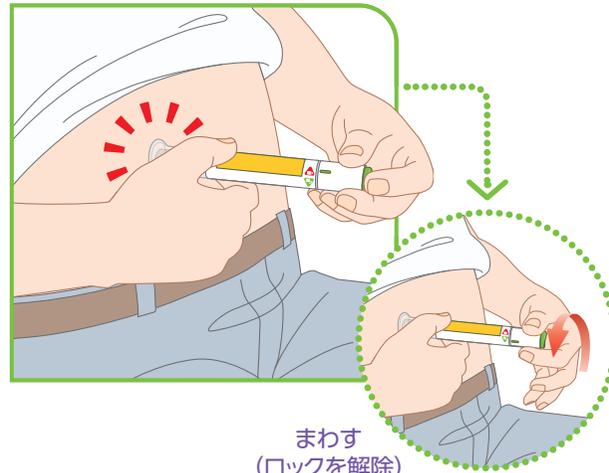
 キャップは使う直前まで取り外さないでください。

 取り外したキャップはすぐに捨ててください。はめ直すと針が破損することがあります。



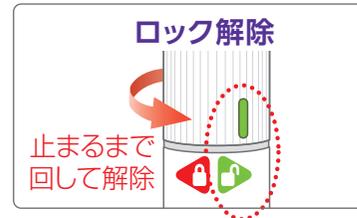
はめ直さない

2 底面を皮膚にあてて、ロックを解除



● キャップが外れていることを確認します。

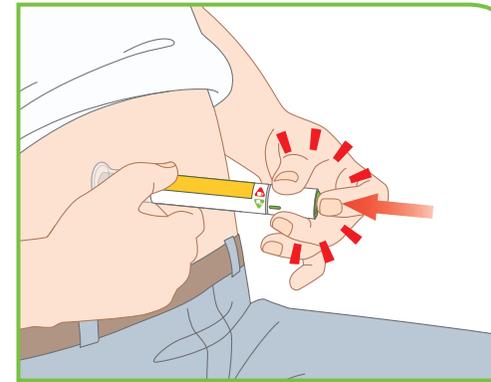
● 透明な底面を皮膚にしっかりとあてたまま、緑色の目印  をロック解除  の方向に止まるまで回し、ロックを解除します。



 皮膚に対してアテオスを垂直にすると、しっかりとあてることができます。

 ペンの中央部を強くつままないでください。針が戻らなくなるおそれがあります。

3 注入ボタンをおす

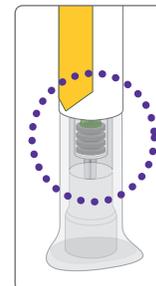


● アテオスを皮膚にしっかりあてたまま、緑色の注入ボタンを押し切ります。

● 1度目のカチッという音がして、薬液の注入が始まります。

● そのまま待つと、2度目のカチッという音がします。これが薬液の注入が終わった合図です。

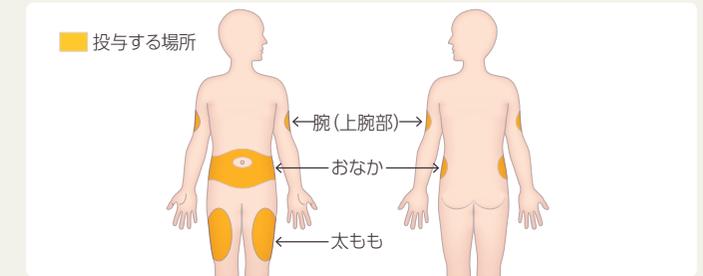
 カチッという音が聞こえなかったときは、透明な部分に灰色のゴムピストンが見えていれば、薬液の注入は完了しています。薬液の注入は、遅くとも10秒以内に完了します。



● アテオスを皮膚から離します。これで終了です。

投与する場所

- 自分で投与する場合はお腹か太ももに、他の人(操作方法の訓練を受けた方)に投与してもらう場合は腕(上腕部)でも構いません。
- 毎回、全く同じ場所に投与しないようにしましょう。少しずつした場所に投与してください。



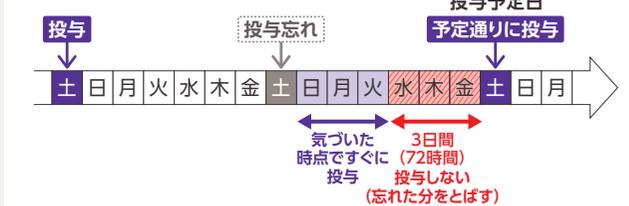
消毒

- 投与する場所を消毒用アルコール綿で消毒してから投与してください。

投与を忘れたとき

- 次の投与日まで3日(72時間)以上ある場合は、すぐに投与してください。その後は、あらかじめ定めた曜日に投与します。
- 次の投与日まで3日(72時間)未満の場合は、忘れた分をとばして、次のあらかじめ定めた曜日に投与してください。

例) 毎週土曜日に投与している場合



保管と取扱い方法

- アテオスは一部にガラスが使われているので、ていねいに扱ってください。硬い床や地面に落としたときはそれを使用せず、新しいアテオスをご使用ください。
- 冷蔵庫(2~8℃)に保管してください。
- 冷蔵庫が使用できない場合、室温(30℃以下)で14日間まで保管できます。
- 凍結させないでください。もし凍結した場合は、使用しないでください。
- 高温や直射日光を避けて保管してください。
- 子供の手の届かないところに保管してください。

廃棄方法

- 使用済みのアテオスは、主治医の指示に従って廃棄してください。
- アテオスは安全性を考慮して、使用後に針が自動的に本体に戻るよう設計されていますが、廃棄の際は、針が露出していないことを確認してください。
- 針に触れる可能性がありますので、使用後底面から本体の中に指が入らないようご注意ください。

トルリシティの効果

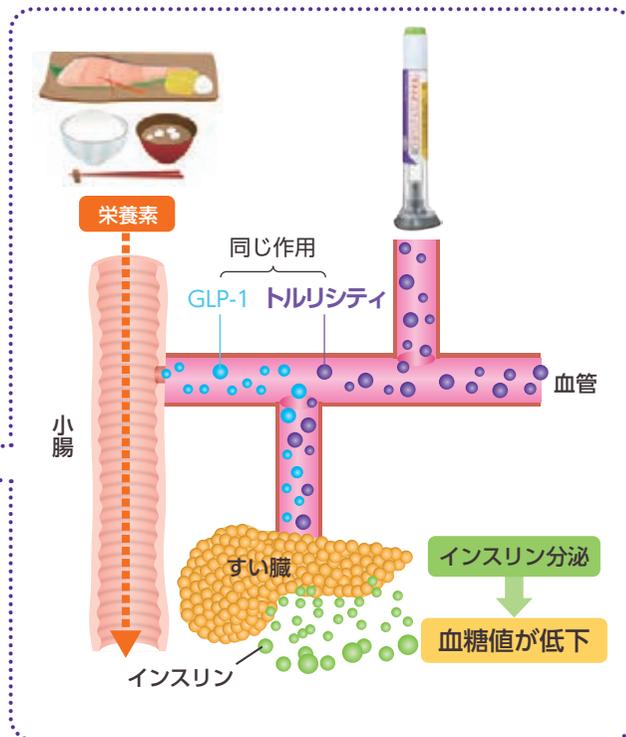
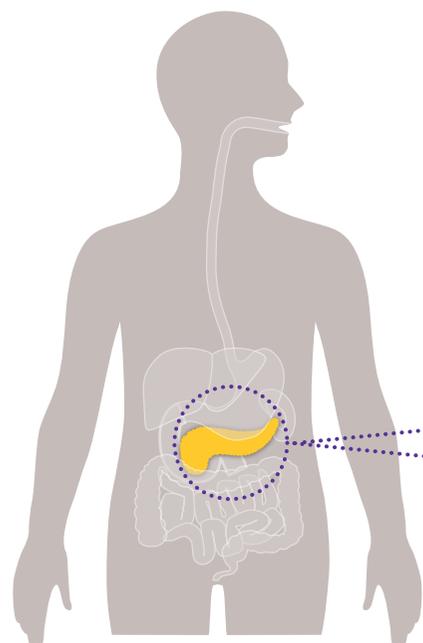
トルリシティは、GLP-1 (ジーエルピーワン) とよばれるホルモンと同じ作用をもつ薬剤です。

GLP-1 の作用

- GLP-1は食事をとったときに小腸から分泌され、血液を通過して、すい臓に運ばれます。
- すい臓はインスリンをつくらしている臓器です。GLP-1がすい臓に働くと、インスリンの分泌が増加します。
- インスリンが分泌されると、血糖値が下がります。
- GLP-1の作用によって、すい臓からインスリンが出されるのは、血糖値が高いときだけです。



トルリシティも、GLP-1と同じように、
血糖値が高いときだけインスリンを出すように働きかけ、
2型糖尿病患者さんの血糖値を下げてくれます。



トルリシティの主な副作用

胃腸の症状

- 吐き気、下痢、便秘などの胃腸症状があらわれることがあります。トルリシティを使い始めたときにあらわれやすいですが、多くの場合、その後改善します。
- 症状があらわれたときは自分の判断でトルリシティの投与を中止せず、主治医に相談してください。
- 吐き気があるときは、揚げ物など脂肪の多い食品は避け、食事の量を減らしましょう。また、満腹感を感じたらそれ以上食べるのをやめましょう。

低血糖

- 低血糖は、血糖値が正常値の範囲を超えて下がりすぎた状態です。
- 右のような症状があらわれたときは、すぐに糖分をとってください。
- 高所での作業をしているときや自動車の運転中に低血糖が起きたときは、すぐに作業・運転をやめて、低血糖の対処をしましょう。
- 低血糖をくりかえさないようにするため、低血糖が起きたことを必ず主治医にお伝えください。

冷や汗	頭痛	意識を失う
動悸	目のかすみ	けいれん
脈が速くなる	空腹感	昏睡
手足のふるえ	異常な行動	顔面蒼白
眠気(生あくび)		

糖分のとり方

- ブドウ糖 (10g)
- ブドウ糖を含む飲み物 (150~200mL): ジュース、清涼飲料水など
- 砂糖 (20g): 角砂糖など

シックデイについて

発熱や下痢、吐き気などがあつたり、食欲がなくて食事ができないときを「シックデイ」といいます。シックデイは血糖値がみだれやすくなり、急性の合併症が起きることがあります。トルリシティによる治療を行っているときにシックデイとなった場合は、主治医に連絡して指示を受けましょう。

ご質問等は、主治医にご相談いただくか、下記までお問合せください。

大日本住友製薬株式会社

くすり情報センター

TEL 0120-885-736^{※1}

受付時間: 月曜日~金曜日9:00-17:30^{※2}

日本イーライリリー株式会社

Lilly Answers リリーアンサーズ

TEL 0120-245-970^{※1}

受付時間: 月曜日~金曜日8:45-17:30^{※2}

時間外お問合せ窓口
(注入器に関するお問合せのみ受付)

※1 通話料は無料です。携帯電話、PHSからもご利用いただけます。
※2 祝祭日および当社休日を除きます。

TEL 0120-245-970^{※1}

受付時間: 平日17:30-22:00、土曜日・祝祭日8:45-22:00
(日曜日は受け付けておりません)